

果樹カメムシ類情報第1号

令和4年4月4日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

果樹カメムシ類の飛来数は6月末までやや多い予想！

1 令和4年のチャバネアオカメムシ越冬成虫密度調査結果

果樹カメムシ類の主要種であるチャバネアオカメムシ（図1）の越冬成虫密度調査を県内14地点で行った結果、平均越冬成虫密度は0.9頭/m²（過去10年の平均値0.8頭/m²）で過去10年と比較し4番目で平年並、越冬成虫の確認地点割合は78.6%（過去10年の平均値55.0%）で（表1）、過去10年と比較し3番目でやや高い状況でした。

2 令和4年の飛来数予測

過去の調査結果から、越冬成虫密度と、果樹カメムシ類の飛来数の目安となる予察灯における5～6月までの誘殺数は関連しており、越冬成虫密度が高い年は誘殺数も多く、越冬成虫密度が低い年は誘殺数も少なくなる傾向があります（図2）。

今冬のチャバネアオカメムシの越冬成虫密度は平年並であるものの、越冬成虫の確認地点割合はやや高い状況でした。また、昨年8月から10月までの豊橋市の予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺総数は過去10年間と比較して最も多く、越冬成虫密度が高まっている可能性があります。これらのことから、**果樹カメムシ類の果樹園への飛来数は6月末までやや多いと予測**します。ほ場での発生状況や5月から始まる果樹カメムシ類の予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数などを参考にして、防除を実施しましょう（表2参照）。

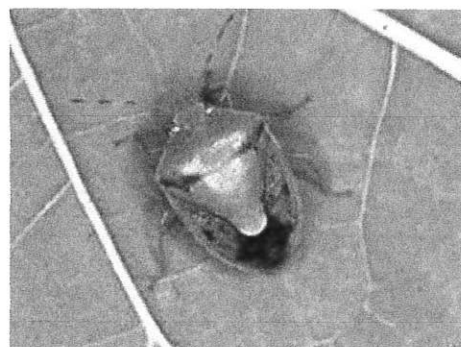


図1 チャバネアオカメムシ成虫

表1 令和4年のチャバネアオカメムシ越冬成虫密度（頭/m²）

調査年	調査地点														全地点 の平均	越冬確認 の地点割合
	幸田町		新城市				豊橋市				豊川市					
	須美 北山北	須美 北山東	大海	市川	小畑	稲木	嵩山	石巻 萩平	石巻 平野	小野田	平尾	千両	足山田	金沢		
令和4年	0.0	0.0	0.3	3.3	0.7	0.3	1.0	0.7	0.3	0.7	0.7	0.0	2.0	2.3	0.9	78.6%
平年	0.7	0.3	2.5	1.2	2.3	0.3	0.5	0.4	0.9	0.3	0.2	0.4	0.8	0.6	0.8	55.0%

平年：平成24年から令和3年までの過去10年の平均値。

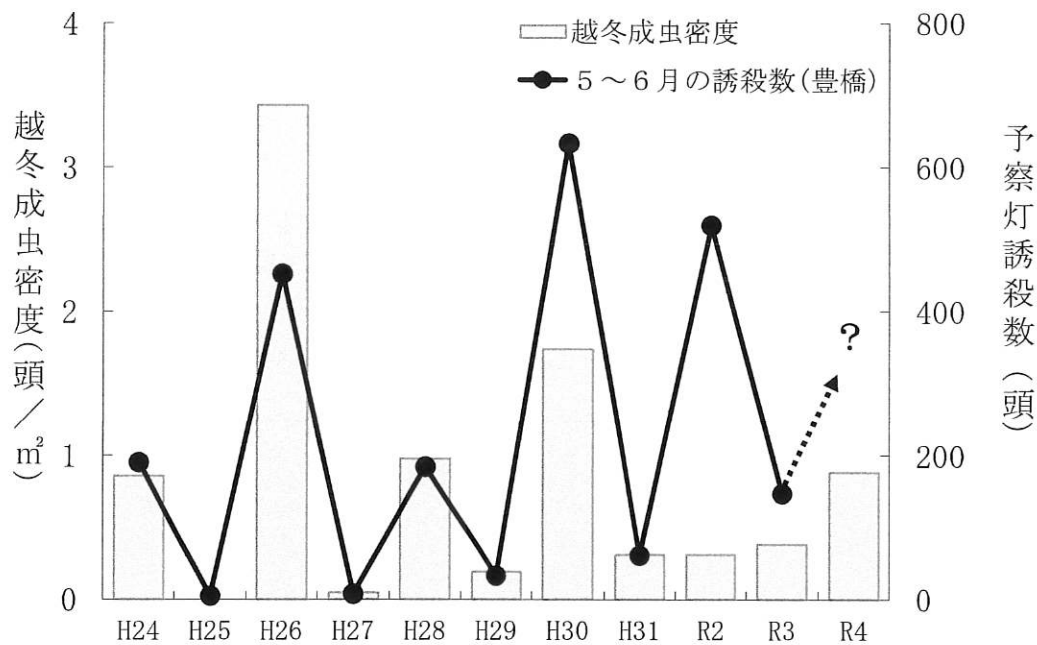


図2 チャバネアオカメムシの平均越冬成虫密度と予察灯における越冬成虫誘殺数（豊橋市）

表2 カメムシ類に対する主な防除薬剤

作物名	薬剤名	使用時期	使用回数	IRACコード
うめ	アクタラ顆粒水溶剤	収穫7日前まで	2回以内	4A
	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	スカウトフロアブル	収穫前日まで	3回以内	3A
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤(※)	収穫前日まで	3回以内	4A
もも	ダントツ水溶剤	収穫7日前まで	3回以内	4A
	アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	MR. ジョーカー水和剤	収穫前日まで	2回以内	3A
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	テルスターフロアブル	収穫前日まで	2回以内	3A
なし	MR. ジョーカー水和剤	収穫14日前まで	2回以内	3A
	アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	スカウトフロアブル	収穫前日まで	5回以内	3A
ぶどう	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A

※ うめに対するスタークル/アルバリン顆粒水溶剤の作物名は小粒核果類で登録令和4年4月4日確認時点の農薬登録情報。IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。IRACコードの詳細は https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/2021/mechanism_irac02.pdf を参照する。
農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。